

令和元年度 第2回千曲市学校給食センター運営委員会 会議概要

日 時：令和元年8月27日（火） 13：15～14：07

会 場：千曲市第1学校給食センター 調理実習室

1. 開会

2. あいさつ 酒井委員長

3. 会議事項

(1) 令和2年度 千曲市学校給食費の改定について 説明：中村所長

- ・ 前回（H26年度）は消費税改定に伴い実施され、物価上昇分は殆ど反映されていなかった。
- ・ 今回の消費税増税では、食品に軽減税率8%が適用される予定であることから物価上昇分を考慮した改定としたい。
- ・ 本年度改定を実施した自治体
長野市：小学校 低学年 260→275円（15円値上げ）、高学年 281→296円（15円値上げ）、
中学校 323→338円（15円値上げ）
須坂市：小学校 272→286円（14円値上げ）、中学校 318→334円（16円値上げ）
塩尻市：小学校 290→300円（10円値上げ）、中学校 330→350円（20円値上げ）
- ・ 千曲市以外の県内18市の平均額：小学校 278円、中学校 323円
千曲市：現行では、小学校低学年 265円、高学年 280円、中学校 320円 である。

質疑応答

事務局への質問

Q 今年度改定を行った長野市・須坂市について、前回いつ改定したか教えて頂きたい。

事務局の回答

A 長野市・須坂市について、前回の改定年度は不明だが、前回の消費税改定に合わせ H26・27年度に改定した自治体が一番多い。29・30年度改定の自治体がそれに次いで多い。

委員の意見

- 配布資料の数値から見て、家庭にとって概算で月300円・年間約3,600円の負担増の見通したが、改定は止むを得ないと考える。
- 値上げについての抵抗感はあるが、資料にも記載されているメリット・デメリットをしっかりと広報すべきだ。給食費を据え置いても、児童生徒がおいしい給食を食べられないのであれば、値上げも止むを得ない。
- 食の安心・安全を図り、地元食材の活用を進めれば単価が上がる。しかし食の安全はお金に換えられない。折角の学校給食で偏った食事になっては意味がない。26年度改定の際も委員を務めたが、この時に食材分の値上げは行っておらず、改定は止むを得ないと考える。
- 家庭の負担にはなるが、値上げは止むを得ない。貧困家庭・朝食を摂らずに登校する児童生徒の問題もある。学校給食は、バランス良く栄養を摂れる点が大きなメリットである。
- この単価でこれだけの給食が提供できるところはないのでは、と考える。資料記載のメリット・デメ

リットは値上げを前提としたものであろうが、改定に賛成。

- 食材を供給する立場として意見したい。給食費は 26 年度から据え置かれているが、必要な時に改定していかないと後でツケが来る。今後食材単価が下がる事は考えにくい。数量減・単価上昇の傾向が強く、数量不足を輸入で補うのが現状である。給食の食材は日本産・地元産を使い安定供給に務めている。これは今後の課題でもある。値上げは止むを得ないと考えるが、改定のメリットについては、希望献立の他にデザートや混ぜご飯などの回数を増やせることよりも、食材の安定供給が一番重要なことである。また、栄養士の先生方の負担も大きくなっている。

審議結果：給食費改定の方向で進め、次回運営委員会で改定額を協議する。

(2) その他

1) 次回委員会について

事務局：給食費改定額を協議する予定、10 月中に開催したい。

日程を調整し、早急に通知する。

4. 閉会

出席者（委員）

酒井康行、坂田和弥、寺澤孝一、町田由美子、中島周子、高地博実、小林篤

欠席：南部江美、高村篤

(事務局)

滝沢裕一（教育部長）、中村信也（第 1 センター所長）、青木道人（第 2 センター所長）、

清水加奈子、清水三菜美（第 1 センター栄養教諭）、中野加代子、土田昌子（第 2 センター栄養教諭）、

永井洋一（第 2 センター管理係長）

欠席：安川延子（第 1 センター調理係長）、小林照昌（第 2 センター調理係長）